

会派視察研修計画書

平成29年9月12日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ
代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	小池 友妃子	
日時	平成29年10月5日（木）～平成29年10月6日（金）	
視察先	宮城県岩沼市	
研修内容	第18回介護保険推進全国サミットinいわぬま	
日程	10/5 介護保険推進全国サミット 13:30～17:40 10/6 介護保険推進全国サミット 10:00～15:00	
交通手段	公共交通機関利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用 _____ 台 所有者名（ _____ ）

会派視察研修報告書

平成29年12月11日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	小池 友妃子
日時	平成29年10月5日（木）～平成29年10月6日（金）
視察先	宮城県岩沼市
研修内容	第18回介護保険推進全国サミットinいわぬま
日程	10/5 介護保険推進全国サミット 13:30～17:40 10/6 介護保険推進全国サミット 10:00～15:00
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修報告書

平成29年12月11日

議員氏名 小池 友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成29年10月5日（木）～平成29年10月6日（金）
- 2 視察先 宮城県岩沼市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

第18回介護保険推進全国サミット

① 地域共生社会の実現に向けて・・・三重県名張市長

平成14年4月に名張市長になった亀井市長は、平成15年度 名張市総合計画「福祉の理想郷プラン」で若いも若きも、男性も女性も、障害者や難病の有る無しにかかわらず、全ての市民の社会参加がかなう互助共生のまちを目指すためにソーシャルキャピタルの醸成（人材資源を含んだ地域資源）が必要であるということ掲げ取り組まれた。

また同年4月よりまちづくりを「住民が自ら考え、自ら行う」ことを目指し、市民参加のもと自立的、主体的なまちづくりの推進のため、行政の支援として「ゆめづくり地域予算制度」を創設し、地区市民センター等を単位とする15の地域で「地域づくり組織」がまちづくり活動を実施してきた。

その結果平成23年より「まちづくり」が基礎となる「名張版地域、包括ケアシステムネットワーク」を作り上げられた。現在は、行政によるしくみづくり、地域による健康づくりの取り組みが連動し、健康寿命、死亡率等が改善している。

また、産み育てるにやさしいまち「なばり」をめざした妊娠・出産育児の切れ目ない相談・支援の場でありシステムとして、「名張版ネウボラ」を立ち上げる。そういったことにより、他機関協働による福祉や子育て、教育等の包括的支援体制が構築され、平成25年以降名張市では15歳未満の転入者が転出者を上回る市へと変わっていった。

② 震災復興過程における取組（市民協働における「まち」づくり）

◆玉浦地区のまちづくりと推進体制：まちづくり検討委員会を発足（平成25年11月）。人とのつながりが大切で、町を自分たちで何とかしようと考え行動するから愛着が生まれる。

- ①まちづくりの「想いを持つ人でチームを作る」
- ②まちづくりの「想いを伝える」…①アドバイザー講話②「まちづくりカード」の委員発表
③まちづくりニュースの発行
- ③まちづくりの「想いを集める」…まちづくりアンケート調査
- ④まちづくりの「想いを形にする」…①まちづくり方針②土地利用計画③画地の配置方針
④公共・公益施設整備方針
⑤まちづくりのルール/地区計画

◆住み慣れた地域で暮らしていくために～農業から見る新たな地域協働～

岩沼市に限らない現在の農業の課題とし、農家は肥料や資材などの高騰や、後継者不足により、自己完結型の限界がきており、農業の衰退による影響が出て、地域の衰退につながってきている。

そこで、岩沼市では、集落で協力して助け合うことができる集落営農組織を作った。

集落営農組織が生み出した市民協働・・・①高齢者の生きがいづくり②集落営農組織というコミュニティの再生③若者は外で働き、60歳からは地域で働く

③まちづくり協議会を通じた地域内分権の取組と地域参画の推進・・・愛知県高浜市長

◆まちづくり協議会の設立：市民ニーズが多様化し、行政でできることには限りが出てきた。そこで、地域でしか解決できないことや地域で取り組んだほうがよりよいサービスにつながるものは地域で行い、そのために必要な権限と財源を地域へ移譲。

◆生活困窮者支援を通じた地域づくり→「高浜市学習等支援事業」を開設

子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることがないように、また貧困が親から子へ連鎖する「貧困の連鎖」を防止するため、支援が必要な子どもたちに対して、自ら将来を描くことができるような支援プログラムを実施。

地域で一体となって次世代を育てるという機運をつくりだした。

地域の協力による食事の提供・・・お昼一食100円。協力団体は16団体。

お米や食材は地域の方々からの善意の寄付

(こども食堂支援基金創設)

↓これにより・・・

地域の方々→「生活困窮家庭の子ども」への理解深まる

子どもたち→多くの人に支えられている安心感、地域への愛情の高まりが生まれる。

学習支援を通じた循環型地域社会の実現・・・学習等の支援を受けた子どもたちが成長し、小学生の学習等を支援したり、地域の担い手として将来活躍するなど地域社会の一員として積極的な役割を果たせるような仕組み・フローを構築。

◆生涯現役のまちづくり→地域の中の「健康自生地」を巡って健康づくり・介護予防

外出による適度な運動、地域住民との交流を目的とした「居場所（地域資源の活用）づくり」による介護予防&認知症予防を行った。つまり社会参加という「生きがい」や「役割」を持って生活できる地域の創出を目指しながら、住民同士の支え合いの体制が構築していった。

◆地域参画を進めた成果

市民・地域の変化・・・退職後の「地域デビュー」などにより、地域での活躍の場につながっている。人と人とがつながり、新たな支援の輪が生まれてきた。

行政の変化・・・地域に寄り添い、一緒に汗を流すことで地域との距離が縮まり、信頼関係の構築や地域の実情に即した事業の実施に繋がってきた。

最後に・・・

地域共生社会に向けて、碧南市がめざすことはなにであるか自分なりに考えてみた。①子どもにしても独居老人にしてもできるだけ社会の集団に取り組んでいくこと②相談支援を行い、つながりをもたせること③就労支援や学習支援を行うことにより人々の生きる力を強めること。これらを目指すためには、地域での支援が必要になってくるということ。地域とは小学校区単位が丁度よく市民が中心となって自分たちができることでお互いがお互いをサポートできる社会をつくる。これからは行政が作ったものを市民が使うのではなく、行政はあくまでサポートに回り、市民一人一人が中心となり、まちづくりをしていくことが大切なのではないかと感じた。

